

耕盤層の位置を確認する(株)鈴生の皆さん。全員、ヤマカワプログラムを紹介した過去の記事を読んできていた
(写真はすべて赤松富仁撮影)



土のスープと光合成細菌をそれぞれ3000倍に希釈して、反当たり100ℓ散布。試験なので、ドリフトしないようにシートでカバーしながらまいた



耕盤層の土500gを5ℓの水で30分煮て「土のスープ」を作った

実験!!

ヤマカワプログラム

協力：静岡市・(株)鈴生

本家の北海道では新たな展開を迎えたヤマカワプログラム。しかし、光合成細菌と土のスープでなぜ耕盤が抜けるのか。なぜ三〇〇〇倍で効くのか。いまだ、疑問は残っている。

そこで編集部では、静岡県でレタスとエタメをつくる(株)鈴生に協力を仰ぎ、ヤマカワプログラムの効果を試すべく実験を試してみた。

試験したのは、排水性が悪くて困っているという約二反の畑。鈴生は耕作放棄地を引き受けて規模拡大して、粘土質で水はけの悪い畑を引き受けざるを得ない場合もある。

六月四日、この畑に光合成細菌三〇〇〇倍と土のスープ三〇〇〇倍を散布した。実験なので、水だけまく対照区、土のスープだけをまく区画、倍率を変える区画なども用意した。

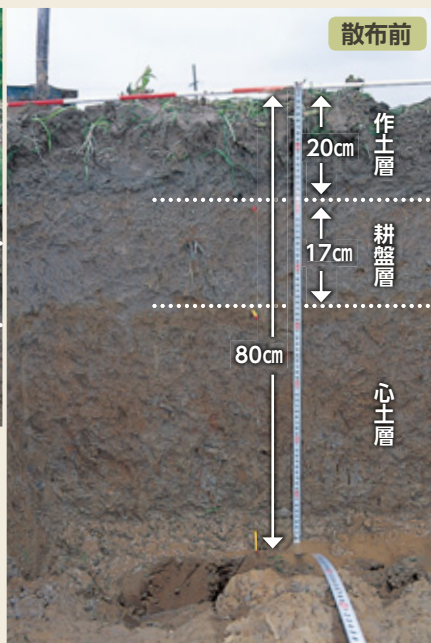
そして約二ヵ月後の七月三十日(その間にダイズを定植、二度の追加散布ももらった)、結果を確かめに再び訪れ、畑を掘ってみた。





作土層にスコップを入れた感触は、前回よりも少しサクサクしている。スコップからの土離れもいい。しかし耕盤層に至るとやっぱり粘土で、土が重い。心土層にも変化は見られなかった。なにより、ダイズの根は耕盤層に届いておらず、生育が改善されたとはいえないようだった。作土層の幅が広がったように見られたが、作付け前にウネを立てたからかもしれない

※この畑は5年ほど前までは水田だった。現在は夏にエダマメ、冬にレタスを輪作し、堆肥は入れていない。



断面は3層。作土層から粘土がきつくて、スコップにへばりついた土の塊がなかなか落ちない。耕盤層と思われる層にも根穴があり、硬さが増す心土層にも根穴が見られた

「わが家の畑で対照区をつくってヤマカワプログラムを実験してみたい」という方、編集部までご連絡ください。

散布前、散布後の畑を掘って、断面図を見比べたのが上の写真。散布前の畑は、前評判通りの粘土質で、練れば土器が作れそうだった。

光合成細菌と土のスープを三〇〇〇倍で散布した場所を掘ってみると、記憶していたよりも、土がサクサクしているような……。

「前回より掘りやすくなった感じがしますね。でも、育ったダイズが水を吸った結果とも考えられます」というのは、この実験を担当してくれた鈴生の長田利宏さんの意見では、まいていない対照区は――。

「うーん、同じような感じですね」

原因は不明だが、地上部にも地下部にも、目に見える違いはなかった。謎多きヤマカワプログラム。編集部では今後も、そのメカニズムを解き明かすチャレンジをしたい。

編